

子どもの姿	◆どのような子どもの姿があったのか？この活動を考えるきっかけとなった子どもの姿 ・ 普段の絵の時間の活動や遊びの中、アクリル絵の具を使った探求活動などを通して色を作ることやその色を使って好きなものを描くことを積み重ねてきている。 ・ 自由な表現を好む子、自由な表現が苦手な子がいる中で、内面的なものを絵や色で表現することで自己表現の幅を広げられるようになってほしい。 ・ 約2週間前、気持ちを色で表現する探究活動を4、5歳児6名で行った。気持ちを視覚化することに難しさがあると予想されたが、思っていた以上に自分なりに考えながら表現する姿が見られた。出来上がった作品を掲示すると、対象児以外の子ども達も興味を持ち、「僕もやりたい」「私も」という声が挙がった。 ・ これまでの色をテーマにした探究活動を園全体で振り返る時間を設けた。その中で、もう一度同じ活動のプロセスでやってみることで変化が見られるのではないかという話が挙がった。今回も前回と同じプロセスで行い、環境のデザインをより工夫することにした。
問い	◆思考のきっかけとなる子どもへの問い 「こんな気持ちの時ってどんな色？」 「この色はどんなことをしている時の気持ち？」 「この〇〇は何をしている時の〇〇かな？」 ※〇〇には“楽しい”“悲しい”“怒っている”等の気持ちが入る
活動をデザインする	◆活動のプロセス ・ あらかじめ複数の円が描いてある画用紙を用意し、「楽しい時」「悲しい時」「怒っている時」の気持ちをイメージして色を作り、円の中に塗る。残りの円は好きな気持ちや感情を自分で考えて色を塗る。 ◆保育者の思い ・ 気持ちと色をリンクさせることで、表現の幅を広げていきたい。 ・ 気持ちに合う色を考えたり、出来上がった色から気持ちを考えたりと、試行錯誤しながら取り組んでほしい。 ・ 振り返りの中で友達と楽しさや難しさを共有したり、お互いの作品の良さに気づき、認め合ってほしい。 ◆保育者のアクション ・ イメージが難しくなかなかり掛かれないことが予想されるため、見本を用意して思考のきっかけを与える。 ・ 色を作る際はイメージ通りの色ができない子もいると思うので、対話を行いながら進める。 ・ 気持ちの具体的なシーンも一緒に考えていくことでイメージしやすいように援助する。

	・優しい、怖い、楽しみ、ドキドキ、悔しい、びっくり等、日常体験の中で様々な感情があることに気付かせていく。 ◆子どものアクションの予想 ・初めて参加する子は戸惑うことが予想される。逆に前回経験した子は自分なりに描き進める姿が見られる。 ・保育者の見本や友達の描く様子を見て挑戦してみようとする。 ・目に見えないもの（気持ちや感情）を表現する楽しさや難しさを感じる。
環境をデザインする	◆どのような場所で行うか？ ・保育室（落ち着いて集中できる環境を用意するため、対象児のみで保育室を使う。） ・机4台 ※4歳児と5歳児が混ざった4つのグループを作る ・活動時間は1時間を設定 ◆どのような道具を使うのか？ ・水彩絵の具（赤、青、黄、白） ・筆（中）×人数分 ・パレット×人数分 ・バケツや布巾×人数分 ◆どのような素材を使うのか？ 画用紙（白） ※あらかじめ6つの円を描いておく ◆どんなことに配慮するのか？ ・前回と同様、今回も使い慣れている水彩絵の具や画用紙を使う。 ・導入のために見本は用意するが、実際に描く時には見せないようにして、先入観をなるべく持たせないようにする。 ・気付いたことに対する共感や違いについての子どもなりの見解を肯定的に受け止めていく。 ・振り返りの中ではお互いの良さを認め合えるよう関わっていく。
小グループ構成	4歳児4名、5歳児6名、計10名

実践者の振り返り

- ・ 前回行った子も初めての子も興味を持って参加していた。
- ・ どの子も真剣に考えながら描いており、活動中部屋が静まり返っていた。
- ・ 色を通して思考を深める体験ができた。4歳児の中には気持ちを言語化することが難しい姿もあったが、保育者との対話の中で自分なりの答えを見つけることができた。
- ・ 振り返りの中では友達に自分の作品の良いところを見つけてもらい、嬉しそうだった。
- ・ 4、5歳児だけの空間、ゆったりとした時間、同じテーブルのメンバーに配慮するなど、それぞれの力を発揮しやすい環境を設定したことが良かった。
- ・ 子ども同士で振り返りができたのは良かったが、時間が足りず対話が十分に行えなかった。少人数にして行った方が良かったかもしれない。

園全体での振り返り

- ・ 1回目は単色で塗っていたが、2回目は2色塗っている子がいた。前回より表現の幅が広がっている。
- ・ 大人がイメージする色とは違う色を作っている子がいて面白い。
- ・ 前回行った子はより表現しやすかったのではないだろうか。
- ・ 園生活や家庭生活の中で感じる様々な感情が表れていた。
- ・ 振り返りの中で「形」というアイデアが出てきたようだが、形にすれば見たままの形や大きさでも気持ちを表現できるのではないだろうか。
- ・ 実践をして、また次の活動を…と考えがちだが、同じ活動を繰り返すことで新たな発見や気づきに繋がることが分かった。
- ・ 4歳児には難しい姿も見られたが、このような気持ちを色にして表現する活動を積み重ねていくことで、うまく自己表現ができるようになるのではないか。
- ・ 気持ちを色で表現することはきっかけで、その子の内面がよくわかる活動になった。
- ・ 園全体で振り返ることにより、更なる探究活動の糸口が見つかったように思う。

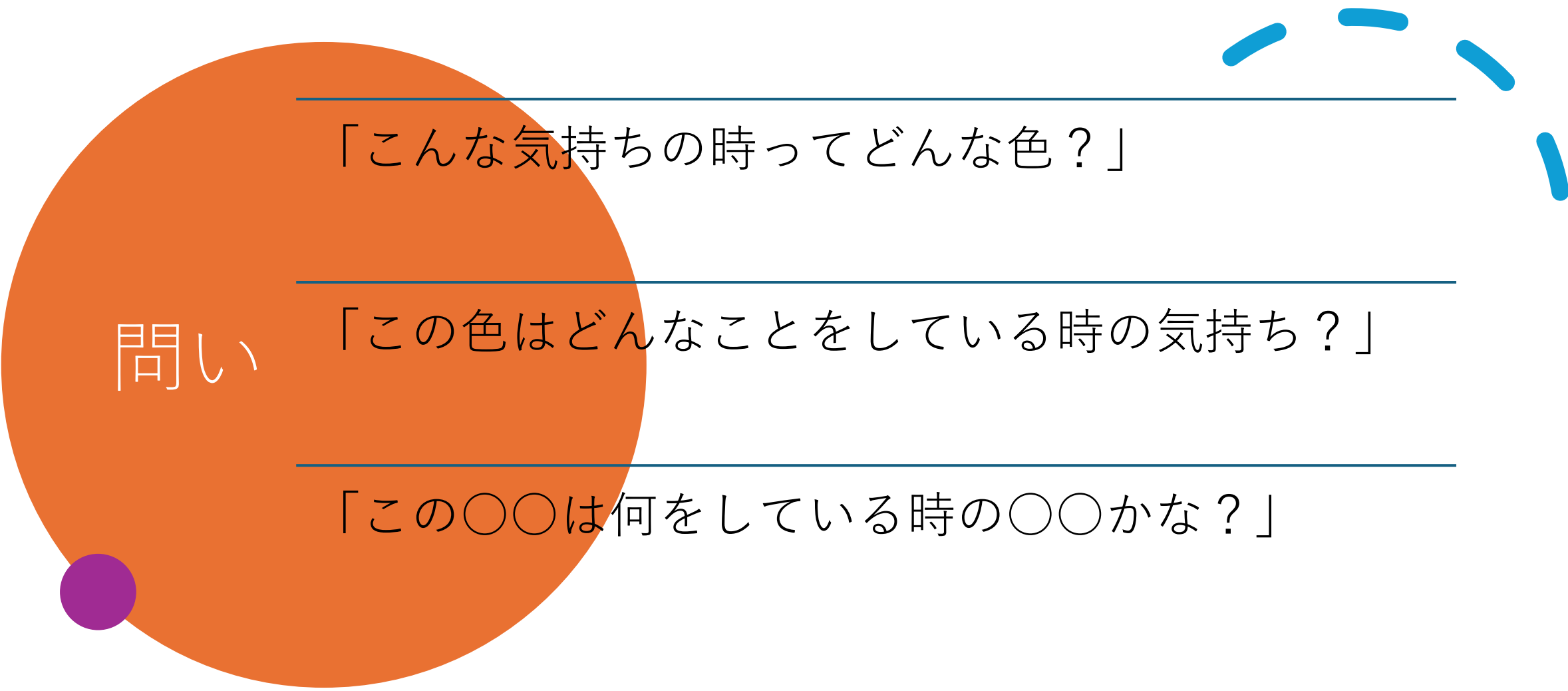
ありんこ保育園

探究活動「色」
気持ちを色で表現する



子どもの姿

- 普段の絵の時間の活動や遊びの中、アクリル絵の具を使った探求活動などを通して色を作ることやその色を使って好きなものを描くことを積み重ねてきている。
- 自由な表現を好む子、自由な表現が苦手な子がいる中で、内面的なものを絵や色で表現してみることで自己表現の幅を広げられるようになってほしい。
- 約2週間前、気持ちを色で表現する探究活動を4、5歳児6人で行った。
- 気持ちを視覚化することに難しさがあると予想されたが、思っていた以上に自分なりに考えながら表現する姿が見られた。
- 出来上がった作品を掲示すると、対象児以外の子ども達も興味を持ち、「僕もやりたい」「私も」という声が挙がった。



問い

「こんな気持ちの時ってどんな色？」

「この色はどんなことをしている時の気持ち？」

「この〇〇は何をしている時の〇〇かな？」

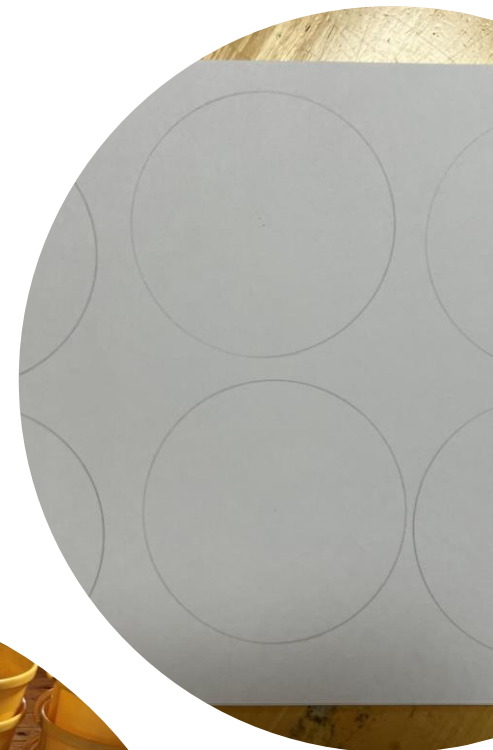
活動のプロセス

あらかじめ複数の円を描いてある画用紙を用意し、その円を「楽しい」「悲しい」「怒っている」のそれぞれの色で塗る。

残りの円は自分で好きな気持ちや感情を選んで色を塗る。

環境のデザイン

- 水彩絵の具（赤、青、黄、白）
- 筆（中）×人数分
- パレット×人数分
- バケツや布巾×人数分
- ○を描いた画用紙
- 保育室 机4台



対象児 4歳児4名、5歳児6名 計10名

初めて参加する子 4名
前回経験している子 6名



【赤】 楽しい

「ブロックで遊んでる時」

【青】 悲しい

「お母さんと離れる時」

【紫】 嬉しい

「お母さんにお洋服を買ってもらった時」

様々な感情や気持ちを考えてスラスラと筆が進む。

2回目だからこそ、考えて描くことが楽しくなる。



5才児 Hちゃん (2回目)

5才児 Sちゃん（初めて）



【水色】 悲しい

「あんまり悲しいことないんだけど」

「リレーで負けた時」

【紫】 びっくり

「ママが急に来た」

【黄色とピンク】 ドキドキ

「ダンスの発表会。失敗したら嫌だな、
でも上手にできたら嬉しいな」

単色ではなく、2色で感情のイメージを作り出している。



5才児 Rくん（初めて）

【ピンク】 嬉しい

「鉄棒している時が嬉しい気持ち」

「黄色は心の中、逆上がりを頑張りたいってこと」

【赤】 怒ってる

「お兄ちゃんにリモコンを取られて怒ったけど、我慢した」

【青と黄色】 楽しい

「河口湖に行って、バナナボートに乗って、楽しかった」

“楽しい”の表現の中で、海の中にバナナボートが浮かんでいるような色を作り出した。楽しかった情景を思い出して描いたのだろう。



5才児 Kくん（2回目）



【白】 美味しい
「ご飯食べてる時」

【オレンジ】 楽しい
「YouTube見てる時だ」

【ピンクとクリーム色】 冬の気持ち
「手には一ってやった時」

“冬の気持ち”は寒い日に手に息を吹きかけた時の気持ち。
家庭や園生活での体験で感じたことが絵に表れている。





【赤と青】

「赤は運動会のリレーで勝ちたい気持ち」

「青は海で溺れて嫌な気持ち」

【赤】

「この赤は転んだ時の血の赤」

「真ん中の赤は仮面ライダーの強い赤」

保育者「この赤はどうしてこの色にしたの？」

N 「わかんねえ！」

保育者「この赤はどんな時に浮かんだ？」

N 「この赤は転んだ時の血の赤」



5才児 Nくん（初めて）

問いかけ方を変えたことでイメージを言語化していった。

5才児 Kくん（2回目）



【オレンジ】 秋の気持ち

【青】 海の手持ち

【緑】 森の手持ち

【ピンク】 楽しい

「ありんこみらいに行って楽しい気持ち！」

感情ではなく情景のイメージだったが、筆がスラスラと進んでおり、イメージを表現することが楽しいようだ。普段マイペースな子だが、いきいきと自分の力を発揮できる機会となった。

【赤】 怒ってる

「お兄ちゃんとおもちゃを取り合いしてる時」

【オレンジ】 悲しい

「お兄ちゃんにおもちゃを取られた時」

【ピンク】 きれい

「海に行って、夕方の海を見てる時」

【水色】 きれい

「海にあって、朝の海を見てる時」

お兄ちゃんと遊ぶ光景の中で感じたことを表現している。
“海を見てきれい”という表現も朝の海と夕方の海とで違う。
感性の豊かさが表れている。



4才児 Yくん (2回目)

【黄色】 悲しい

「〇〇君とけんかした時」

【赤】 怒ってる

「〇〇君にブロック取られちゃった時」

【白】 面白い

「〇〇君が面白い時」

【青・紫】

「保育園お休みして、つままない時」

〇〇とは普段あまり関わりがないが、〇〇のことが好きなのだろう。
物静かな子だが、保育園生活を楽しんでいることが分かった。



4才児 Eくん（初めて）

【赤】 怒ってる
「弟とけんかした時」

【オレンジ】 楽しい
「弟と遊んでいる時」

【ピンク】 嬉しい
「パパがおもちゃを買ってくれた時」

スラスラと筆が進んでいた。
保育者に「この色はどんな時の気持ち？」と
投げかけられた時に言語化することが難しそうだった。
好きな色を描いて、そこに感情を乗せたのかもしれない。



4才児 Kちゃん（2回目）

4才児 Yちゃん（2回目）



【黄色】 嬉しい

「○○ちゃんと遊んでいる時」

【白】 悲しい

「お姉ちゃんとけんかしてる時」

（アイスの取り合い）

活動に対して消極的だったが、隣にいた年上児の真似をして描き始める。

保育者が多くを問いかけると難しさを感じてしまった。

保育者が優しく対話を重ねることで、自分なりに描き上げた。

経験を積み重ねることで、豊かに表現できるようになるのでは。





振り返り

保育者「感想がある子はいますか？」

K君「〇〇ちゃんの紫色がきれい」

Y君「青と黄色を混ぜているのがきれい」

Hちゃん「〇〇君の“つまらない”の色が面白い」

Sちゃん「今度は形とか」

Y君 「雨とかお日様とか・・・」



保育者(実践者)の振り返り

- ◆前回行った子も初めての子も興味を持って参加していた。
- ◆どの子も真剣に考えながら描いており、活動中部屋が静まり返っていた。
- ◆色を通して思考を深める体験ができた。4歳児の中には気持ちを言語化することが難しい姿もあったが、保育者との対話の中で自分なりの答えを見つけることができた。
- ◆振り返りの中では友達に自分の作品の良いところを見つけてもらい、嬉しそうだった。
- ◆4、5歳児だけの空間、ゆったりとした時間、同じテーブルのメンバーに配慮するなど、それぞれの力を発揮しやすい環境を設定したことが良かった。
- ◆子ども同士で振り返りができたのは良かったが、時間が足りず対話が十分に行えなかった。少人数にして行った方が良かったかもしれない。

園全体での振り返り

- 1回目は単色で塗っていたが、2回目は2色塗っている子がいた。前回より表現の幅が広がっている。
- 大人がイメージする色とは違う色を作っている子がいて面白い。
- 前回行った子はより表現しやすかったのではないだろうか。
- 園生活や家庭生活の中で感じる様々な感情が表れていた。
- 振り返りの中で「形」というアイデアが出てきたようだが、形にすれば見たままの形や大きさでも気持ちを表現できるのではないだろうか。
- 実践をして、また次の活動を・・・と考えがちだが、同じ活動を繰り返すことで新たな発見や気づきに繋がることが分かった。
- 4歳児には難しい姿も見られたが、このような気持ちを色にして表現する活動を積み重ねていくことで、うまく自己表現ができるようになっていくのではないかな。
- 気持ちを色で表現することはきっかけで、その子の内面がよくわかる活動になった。
- 園全体で振り返ることにより、更なる活動の糸口が見つかったように思う。